令和３年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

県北会場

科目　⑨子どもの遊びの理解と支援

◆　子どもは遊びを通じて自分を発見する。遊びの中で他者と関わることで個性に気付く。遊びの中にたくさんの成功、失敗を体験することが大事。核家族化、少子化など、子どもを取り巻く環境の変化が遊びにも影響している。携帯電話やインターネットの普及などからコミュニケーション能力が低下している。対面で話すのが苦手な子や自分の気持ちをきちんと聞いてもらおうとせず、すぐ諦めてしまう。子どもの側に立って関われる存在でいたいと思った。

◆　遊びを通して成功体験や失敗体験ができるように、そして、それを大人がフォローしていけるようにしていきたいです。小学校からは学習の方に目が向きがちですが、見えない根の部分には、保育で大事にしてきた育ちが土台として根付いていると聞き、嬉しく感じました。子どもが自分から行動することを側で一緒に笑い、共に何かをし、尊敬の心を持って関わり、言葉や動きから子どもの気持ちに気付いて寄り添える保育者でありたいです。

◆　子どもにとって生活と遊びは区別がなく、遊びが子どもの成長にとって大切であることを学びました。子どもたちを取り巻く環境からコミュニケーション能力の低下や免疫系の異常につながること、外遊びで日光を浴びることにより低体温症を防ぐことなどを教えていただき、今後子どもたちと遊ぶ際にはこれまでより大切に感じられると思います。様々な支援の方法がある中で、自分がどのような支援ができるかを常に考え、子どもたちと接していきたいです。

◆　昔は遊びと学びの区別はなかったが、都市化、核家族化、少子化、情報技術の進行でコミュニケーション不足となり、遊びにも影響がでている。子どものライフハザードにより外遊び不足、体力の低下、自立神経や免疫系、生活習慣病など異常が起きている。観察する、覚悟を持って見守る、先を見通す、引き際を見定めて援助することが必要であり、いかに子どもの心を言葉や動きから気付けるようになるかが大切だと思った。

◆　遊びが学びという子どもたちの環境に変化が現れ、育ちにも影響が出ていると知り寂しく感じた。遊びの中で互いのやりとりから意見が食い違い、会話をし、そして仲直りをする。一連のコミュニケーションをする力を養っているように思う。支援する立場として、子どもの遊びの邪魔にならないよう、共に遊び、共感し、耳を傾け、理解する。教育するのではなく、子どもと一緒に学びを得られる環境の一部として接していけたらと思う。